

HOPES

ホープス セカンド

2nd

昨年12月まで村の地域包括支援センターに勤務していた星野さん。現在は、訪問看護ステーションの開設に向けて忙しい日々を送っています。国語教師として仕事をしながら、医療従事者を志したのは40代を迎えた頃。そこから10年、子どもの自立を見届けて教師生活にピリオドを打ち、再び学生となって看護師・保健師などの資格を取得しました。その後、都内の病



村民として訪問看護事業に挑戦したい

星野 勝弥さん（飯樋町）



東京大学で言語学を学び（休学して働いていた時期をはさみ）卒業後は国語教師として私立高校に25年間勤務。その後再び進学して資格を取得し医療の現場に飛び込みました。平成29年に村へ移住。

村で訪問看護をやろうと決意し飯樋地区に1軒屋を購入して移住しました。実はプロ顔負けのシャンソンの歌い手でもある星野さん。音楽でつながる仲間が家に集い演奏を楽しむことも。

院に勤務し、「天職かも」と感じる精神訪問看護の仕事で経験を重ねていきました。そうした中で起きた東日本大震災。星野さんの思いは被災地に向かいます。「避難を強いられた地域で、きつと訪問看護が必要になる」。村の包括支援センターで保健師として働くこと約2年。そこで得た経験も活かしながら、星野さんは、いよいよ村で、訪問看護ステーションの立ち上げに挑戦します。「実は名前は先に決めていて…」という事業所名「あがべこ」にはギリシャ語の「アガペー（無償の愛）」という言葉を忍ばせました。牧師だった両親。亡き母を「その実践者だった」と感じているそうです。これまでの人生とも重なり合う新たなステージとなりそうです。医療を必要とする村民のために、一緒に働いてくれるスタッフを、大募集中です。

＜編集後記＞

● 年が明けると、令和2年となり、急に年が進んだように感じます。昭和生まれの自分、最新技術ももちろんですが、アナログにも惹かれます。最近、3歳の息子と夜な夜なレコードで音楽を聞いています。どんな時代になっても、良いものが残り続けて欲しいと願うばかりです。（木幡）

● 新春村民のつどいで、村立小学校の児童がそれぞれの思いを発表しました。「将来の村は大都会になつて欲しいと思う！」「昔から助け合ってきた村。皆の思いを大事にしたい」「3つの小学校の最後の卒業生として頑張っていきたい」「村民の皆さん、一緒に頑張りましょう」。真つ直ぐな言葉が尊くて…励まされ泣き笑った大人達でした。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。